



平成 28 年度

新東名高速道路建設に伴う発掘調査

やながわたけのうえいせき

柳川竹上遺跡 (秦野市No.141)

主催 公益財団法人かながわ考古学財団

共催 秦野市教育委員会

縄文・平安時代の住居を発見

柳川竹上(やながわたけのうえ)遺跡の発掘調査

秦野市上地区に所在する柳川竹上遺跡(秦野市No.141)は、中日本高速道路株式会社が計画している新東名高速道路建設に伴い発掘調査を 2015(平成 27)年 10 月から実施しています。

これまで本格的な発掘調査の事例がなかった地区ですが、今回の調査において、縄文時代から江戸時代にいたるまでの遺構や遺物が発見されました。

縄文時代では、中期の竪穴住居跡が 6 軒発見され、土器や石器などの遺物が豊富に出土しています。

弥生時代では、狩猟で動物を捕獲する施設と考えられる「落とし穴」が発見されました。

平安時代では、カマドを持つ竪穴住居が 3 軒発見されています。その多くは地すべりなど地震による影響を多く受けていることが、特筆されます。

江戸時代の秦野地方では、1707(宝永 4)年の富士山噴火により一帯が宝永火山灰で覆われました。この火山灰は穴を掘って埋められていました。天地返しにより耕作地を復旧したと考えられ、当時の人々の苦勞が偲べれます。

これら先人達の足跡を皆様にご覧いただき、郷土秦野の歴史を探る資料として、活用して頂ければ幸いです。



公益財団法人かながわ考古学財団

遺跡周辺航空写真



J6 号住居跡と周辺の調査状況



J6 号住居跡完掘状況



J6 号住居跡(縄文中期)調査状況



J6 号住居跡埋壺



土器出土状況



J1 号住居跡の検出(縄文中期) ローム面に住居の黒い輪郭が浮かびあがります。



J1 号住居跡調査状況 土層の観察帯を設け、覆土を掘削しています。



J1 号住居跡完掘状況 床面は地震などの影響で波打つよう起伏しています。



J1 号住居跡の施設 中央部には炉があります。火鉢のように土器を埋めた埋壺炉と呼ばれるものです。土器を逆さまに埋めた伏壺は、住居の出入口に多く見られるものです。

およその年代

35000年前

15000年前

2500年前

1700年前

1300年前

800年前

400年前

150年前

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

古代

中世

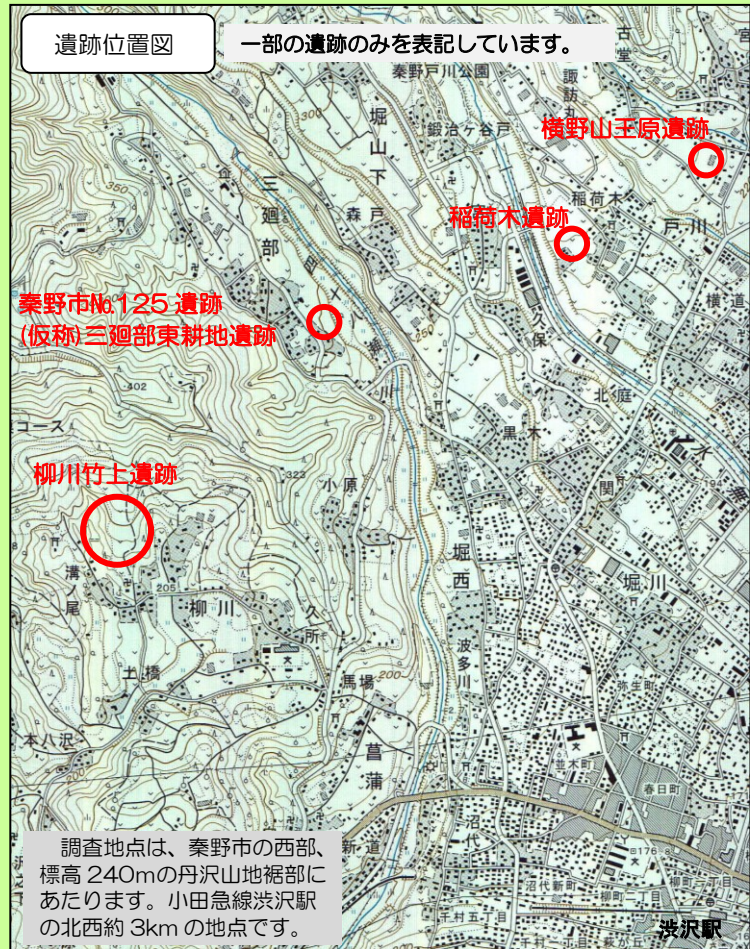
近世

(※1) 赤色の帯は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示したものです。

(※2) 本資料の内容は発掘段階のもので、今後の調査成果や出土品整理・分析などにより評価を変える場合があります。



「地域の特色のある
埋蔵文化財活用事業」



測量・記録作業 発見された遺構や遺物は、土層の堆積などの記録をとりながら写真撮影や出土位置などの測量を行い、調査を進めていきます。



平成 28 年度
新東名高速道路建設に伴う発掘調査

柳川竹上遺跡 見学会資料 (秦野市No.141)

2016 年 5 月 21 日

主催 公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市内南区中村町 3-191-1

Tel.045-252-8689 http://kaf.or.jp

共催 秦野市教育委員会